

豪雨再び福岡を襲う

台風7号が置き去りにした梅雨前線が昨年が続いて再び大雨を降らせた。西日本豪雨は九州のみならず中国、四国、近畿、東海地方の広範囲に及び死者、行方不明者は200人を超える甚大な被害をもたらした。



▲土砂が敷地内に流れ込み家屋の柱をなぎ倒した

筑紫郡那珂川町南畑地区も被災

降りやまない雨は7月6日15時17分避難勧告が那珂川町から発令された。しかし、既に山からの増水した流水により流れ込んだ田畑や用水路は溢れ、道路が川となっていた。区民は朝から避難所として開設していた公民館に続々と集まり、大雨に備えた。雨はその後も降ってはやみ、降ってはやみを繰り返し、夜9時頃まで降り続いた。それからは小康状態となったが、不安な夜を公民館で過ごすことで避難した区民はゆっくりと休むことができた。

九州北部豪雨で亡くなられた方へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々からお見舞い申し上げます。早期の復旧・復興を祈念します。



8日の日曜日まで大雨の警戒は続いたがその間、区内を随時パトロールし、以前から警戒していた危険箇所を中心に被災状況を確認した。わかっているだけではあるが家屋全壊1棟、家屋一部損壊2棟、道路通行止め7件、土砂崩れは大小数十件に上った。しかし、9年前に発生した中国・九州北部豪雨に匹敵す

るほどの災害に遭いながらも死者、けが人は一人もいなかったのは不幸中の幸いであった。それでも全壊した家屋の方の話によると、土砂崩れの時、家の中にいた方は一人で一時閉じ込められたが無事に救出された。しかし、たまたま他の家族は夜、帰宅が遅かったため難を逃れたという。まさに紙一重だった。

災害支援活動スタート

当センターでは、那珂川町の被災状況に基づき支援活動を次週14日から行うこととした。朝倉地域においても床上浸水等被害は発生しており、それぞれの地域の支援ニーズ状況に応じて活動範囲を広げていくこととした。

朝倉、そして那珂川町へ安全安心を守る我々の活動は広がり、絆は強固なものとなっていく。

